

おひさま新聞

NO.3 2026.5.20

【自然との関わり・生命尊重編】

地域に住む豊能町「トヨノノサポーター」の小嶋さんが4月にお手製の小屋に入ったゴマダラチョウのさなぎを持って来てくれました。玄関のところに置いてあり、子どもたちはチョウになるのを楽しみに観察をしていました。

そして、5月11日（月）にチョウが羽化しました。早速、連絡を取り14日（木）に小嶋さんが来てくれ放蝶の予定をしていましたが、前日まで元気に動いていたのに、朝には動かなくなっていました。「まだ、寝てるんちゃう？」と子どもたち。小嶋さんから2ゴマダラチョウについて教えてもらいました。

*初谷川や高代寺の近くにおいて、珍しいチョウであること。

*チョウは1匹、2匹ではなく、1頭、2頭と数えること。

*チョウは卵を300~500個産むけど、虫や鳥に食べられたり、自然の原理で大きく成長するのは2頭くらいであること。

そして、もう1頭、さなぎをもってきてくれました。子どもたちは興味津々に話を聞き、すみれ組はそっと触らせてもらいました。ぴくっと動いていて、さなぎが生きている様子を手で触って感じることができました。

そして、今回のゴマダラチョウは残念ながら動かなくなってしまったけど、標本にしてください、玄関のところに持ってきてくれました。



今回のゴマダラチョウのことをきっかけに、自然の命の大切さについて、子どもたちと考えることができました。

「豊能の自然ってすごいんだ！」と自信をもってこれからも遊んでいきたいと思ます。

放蝶5/18



先日頂いたさなぎが羽化したよ



木の樹液が好きなので、木に放したよ。